

# 千葉県立中央博物館 実施計画 (令和7年度～10年度) 骨子案

## 目次

### 第1章 実施計画策定の趣旨

### 第2章 本実施計画の重点事業

#### 第1節 4年間の重点事業

#### 第2節 重点事業の実施スケジュール

### 第3章 取組の方針に沿った重点事業の展開

#### 第1節 収集・保管

- 01) 収集・保管で『分野をつなげる』
- 02) 収集・保管で『地域をつなげる』
- 03) 収集・保管で『情報をつなげる』
- 04) 収集・保管で『人をつなげる』
- 05) 収集・保管で『未来へつなげる』

#### 第2節 調査・研究

- 01) 調査・研究で『分野をつなげる』
- 02) 調査・研究で『地域をつなげる』
- 03) 調査・研究で『情報をつなげる』
- 04) 調査・研究で『人をつなげる』
- 05) 調査・研究で『未来へつなげる』

#### 第3節 展示・教育普及

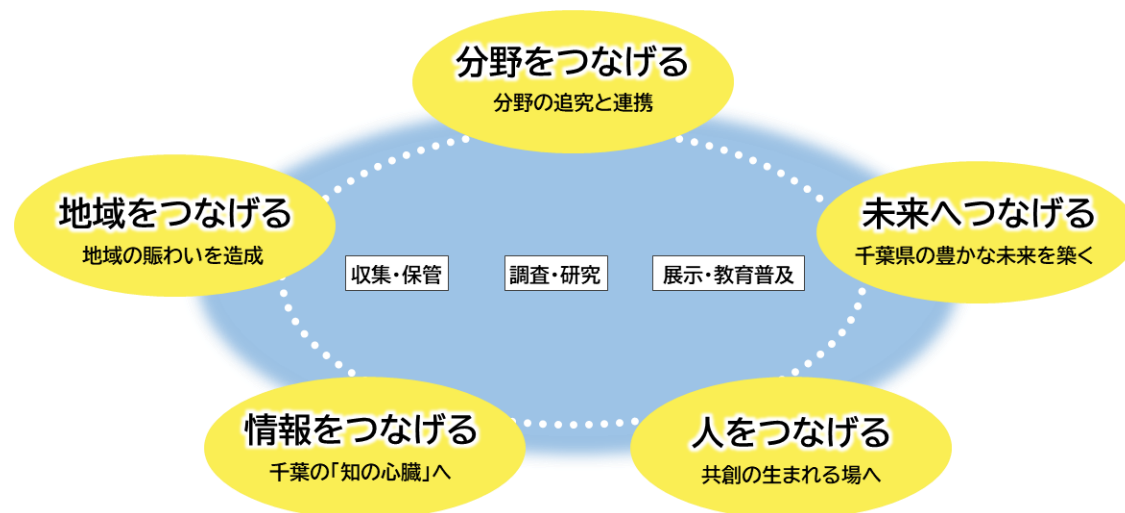
- 01) 展示・教育普及で『分野をつなげる』
- 02) 展示・教育普及で『地域をつなげる』
- 03) 展示・教育普及で『情報をつなげる』
- 04) 展示・教育普及で『人をつなげる』
- 05) 展示・教育普及で『未来へつなげる』

千葉県では、県立博物館をめぐる社会情勢の変化、これまでの県立博物館が抱える現状と課題、これからの県立博物館のあるべき姿を整理し、千葉県立中央博物館のリニューアルを見据えた基本計画として、令和6年3月に「**千葉県立中央博物館みらい計画**」を策定しました。

本事業計画は、この「千葉県立中央博物館みらい計画」の指し示す、基本コンセプト、目指す姿、取組の方針を受けて、今後4年間（令和7年度～10年度）で取組むべき事業計画について、**収集・保管、調査・研究、展示・教育普及**の3つの博物館活動ごとに整理しています。

## みらい計画における基本コンセプト、目指す姿と取組の方針

- |         |  |
|---------|--|
| 基本コンセプト | 多彩な特徴をもつ<br>半島ちばの<br>未来を切り拓く   |
| 目指す姿    | 1) 千葉の自然と歴史、文化を見つけ、伝え、残す博物館<br>2) 千葉から世界に拓く博物館   |
| 取組の方針   | 1) 資料やフィールド活動を大切にする<br>2) 中央博物館からつながりの輪を広げる<br><br>以上2点の価値観を大切にしながら、「つながり」の視点で取り組みを整理する。 |



### 第1節 4年間の重点事業（令和7年度～10年度）

#### ① 千葉の海の魅力を探り 国内外に発信

三方を海に囲まれた千葉県。日本列島最大級の砂浜海岸、複雑に入り組んだ岩礁海岸、遠浅の干潟など、地域によって様々な表情を持っています。千葉県はまた、海を介して日本各地や世界とつながり、多様な文化を生み出してきました。

中央博物館は、このような海に囲まれた、半島ちばの魅力を探り、新たな魅力を創造し、国内外に発信します。

#### ② 世界とのつながりを意識

千葉県は、現在、成田空港で世界と直接つながっています。古からの世界との窓口である海、現代的な世界との窓口である空、この二つを併せ持っているのが、千葉県の大きな特徴といえます。この特徴をとらえ、貿易をはじめとした世界とのつながりを意識した研究、展示、教育普及活動を行います。

#### ③ 他機関との連携強化

令和5年に施行された改正博物館法では、地域の多様な主体との連携が求められていることから、他機関との連携に積極的に取り組みます。

特に、令和6年5月に千葉県と包括協定を締結した国立歴史民俗博物館とは、研究や展示だけでなく、様々な分野で連携し、千葉の魅力の発信や地域の課題解決につとめます。

#### ④ デジタル技術の活用

近年はデジタル関連サービスの需要が急速に拡大しています。これらの需要に応えるために、資料データベースの公開の充実、ウェブコンテンツの充実、オンラインによる行事の実施に努めるなど、だれもが、いつでも、どこでも博物館とつながれるようにします。

#### ⑤ 資料を未来に引き継ぐ

令和2年に策定された「千葉県立博物館の今後の在り方」によって、大利根分館の資料と大多喜城分館の資料の一部を本館で引き継ぐことになりました。また、当館は中堅職員が少ない年齢構成となっています。綿密な資料の引継ぎ計画を立てることにより、資料を確実に未来に引き継ぎます。

さらに、近年は災害の激甚化・頻発化が目に見える形で進んできており、博物館資料や文化財なども大きな被害を受けています。災害発生時にはいつでも、千葉県内の中心館として活動できるよう備えます。

## 第2節 重点事業の実施スケジュール

### ① 千葉の海の魅力を探り 国内外に発信

新規

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
重点研究 「東京湾の変遷」 (自然誌系・人文系連携)	研究		企画展示 シンポジウム 開催	
歴博との共同研究 「千葉の海藻文化 と東アジア」 (自然誌系・人文系連携)	共同研究 開始	研究	企画展示 シンポジウム 開催	
特別展 「海の幸」 (自然誌系・人文系連携)	特別展開催			
特別展 「深海生物」 (自然誌系)	準備	準備	特別展 シンポジウム 開催	
房総の海をフィールド とした観察会 の実施	観察会の実施			
房総の海の魅力を 伝えるウェブコン テンツの作成	コンテンツの追加			

## 第2節 重点事業の実施スケジュール



### ② 世界とのつながりを意識

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
<b>新規</b> 歴博との共同研究 「千葉の海藻文化と東アジア」 (自然誌系・人文系連携) (再掲)	共同研究開始	研究	企画展示 シンポジウム 開催	
<b>新規</b> 歴博との共同研究 「千葉の蘭学」 (自然誌系・人文系連携)		共同研究開始	研究	特別展 シンポジウム 開催
SDGsや生物多様性、地球温暖化など全地球規模の課題についての展示や講座などの開催	講座・観察会の開催			

## 第2章 本実施計画の重点事業

### 第2節 重点事業の実施スケジュール



#### ③ 他機関との連携強化

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
新規 歴博との共同研究 「千葉の海藻文化と東アジア」 (自然誌系・人文系連携) (再掲)	共同研究開始	研究	企画展示 シンポジウム 開催	
新規 歴博との共同研究 「千葉の蘭学」 (自然誌系・人文系連携) (再掲)		共同研究開始	研究	特別展 シンポジウム 開催
新規 連携した広報活動	実施内容検討 協議	連携	連携	連携
他研究機関職員 との共同研究	共同研究の実施			
新規 災害発生時の資料 救済の組織づくり	他組織と連携検討	連携開始	連携	連携
	組織体制整備検討	検討	予算要求	組織体制整備
	救済収蔵庫 要件検討	検討	基本設計 (新収蔵庫)	実施設計 (新収蔵庫)

## 第2章 本実施計画の重点事業

### 第2節 重点事業の実施スケジュール

#### ④ デジタル技術の活用

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
収蔵資料データベースへの登録	登録作業継続			目標90%
画像登録	登録作業継続			目標20%
貴重書閲覧システム	資料デジタル化予算要求	システム検討	システム構築	運用開始
ウェブコンテンツ	新規追加・更新			
外部システムとの連携	ジャパンサーチ 検討	連携		
		文化遺産オンライン 検討	連携	
	GBIF/SNET		連携	
講座・講演会のオンライン配信	オンラインによる講座等の実施			

新規

## 第2節 重点事業の実施スケジュール

### ⑤ 資料を未来に引き継ぐ

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
災害時伝達訓練	年1回実施			
資料救済 ブロック会議	ブロックごとに年1回実施			
新規 災害発生時の資料救済の組織づくり (再掲)	他組織と連携検討 組織体制整備検討	連携開始 検討	連携 予算要求	連携 組織体制整備
	救済収蔵庫 要件検討	検討	基本設計 (新収蔵庫)	実施設計 (新収蔵庫)
資料集約	大利根分館資料 大利根分館で保管			
	大多喜城分館資料 研修館へ移動	大多喜城分館資料 研修館で保管		
	コレクションポリシー見直し	検討	新コレクションポリシー決定	新ポリシーのもと収集
新規 人材育成	資料引継ぎ計画	立案	引継ぎ計画決定	引継ぎ計画のもと引継ぎ
	研修会の開催・外部研修会への参加			



### 第3章 取組の方針に沿った重点事業の展開

#### 第1節 収集・保管

大項目	中項目	10年間の事業展開	4年間の事業展開
分野をつなげる	①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動	【1】自然科学、人文科学等個別分野の資料に加えて、双方の研究に関連した資料も収集・保管 【2】現在収集されていない資料について、多分野の視点で情報を共有	○人文系資料の積極的な収集 ○自然誌系資料の計画的な収集 ○複数分野による資料価値の見直し ○コレクションポリシーの見直し <b>(重点)</b>
	②広域的な視点での活動	【1】特定の分野や県域にとらわれず、県として保存すべき資料を収集保管 【2】科学の発展に寄与する全国レベル、国際レベルの資料の収集	○県外に存在する千葉県にかかわりのある資料を収集 ○資料を用いた研究の推進
地域をつなげる	①県域を俯瞰した活動	【1】県域を俯瞰した視点での収集・保管	○県の特徴を説明するために不足している分野の集中的な資料収集 ○地域ごとに偏りのない収集
	②他機関との連携・支援	【1】非常時の文化財・博物館資料の救済の実施	○災害発生時の資料救済の組織づくり <b>(重点)</b>
		【2】国内外機関との交流による収集強化	○国内外機関との共同研究や資料交換によるコレクションの充実
③博物館と地域をつなげる	【1】県の施設の資料情報を一元管理するとともに、資料情報の集約による新たな地域資源を把握	○千葉県立博物館情報システム活用の推進 <b>(重点)</b>	
情報をつなげる	①成果の迅速な公開・発信	【1】博物館資料情報のデジタル化等を推進	○千葉県立博物館情報システムへの資料情報登録の推進 <b>(重点)</b> ○千葉県立博物館情報システムへの画像の登録・活用の推進 <b>(重点)</b> ○貴重書閲覧システムの構築 <b>(重点)</b>
		【2】外部システム（研究者間資料情報共有システム等）との連携	○サイエンスミュージアムネット、地球規模生物多様性情報機構との連携 <b>(重点)</b> ○GenBankとの連携 <b>(重点)</b> ○ジャパンサーチ、文化遺産オンラインとの連携 <b>(重点)</b>
	②千葉の魅力にふれる環境づくり	【1】収蔵資料や資料情報のアクセシビリティの充実・高度化	○千葉県立博物館博物館情報システムのユーザビリティの向上
③資料情報の一元化	【1】県の施設の資料情報の収集・管理	○千葉県立博物館情報システム活用の推進 <b>(重点)</b> (再掲)	
人をつなげる	①県民参加・協働型の活動	【1】個人や市民団体、ボランティア等と協力した収集保管体制の確立	○ボランティアによる資料整理体制の整備
	②県民ニーズへの対応	【1】県民にとって財産となる資料の収集	○資料を用いた研究の推進 (再掲)
		【2】個人や団体の所有資料の情報収集と受入	○地域資料の積極的な寄託、寄贈の受入れ
③新たな協働を生む仕組み作り	【1】学術的価値・資料価値の高いコレクションの充実	○共同研究における活用による収蔵資料の学術的価値の向上	
未来へつなげる	①これまでの成果の活用・継承	【1】収蔵資料の確実な管理、寄贈・寄託資料の受入れ	○収蔵環境の適切な管理 ○リビングコレクションの適切な管理
	②長期的な視点での活動	【1】中長期的な収集計画の整備、継続的な収集を踏まえた収蔵スペースの確保	○中長期的な資料収集計画の策定 ○中長期的な収蔵環境の整備計画の策定
		【2】コレクションポリシーの見直し、コレクションポリシーに基づく収集	○コレクションポリシーの見直し <b>(重点)</b> (再掲)
③人材育成	【1】職員の資料管理等専門知識の習得、研修等の実施・参加、引継計画の立案	○資料保存に関する研修会の実施・参加 ○資料の引継計画の立案 <b>(重点)</b>	

## 第3章 取組の方針に沿った重点事業の展開

### 第2節 調査・研究

大項目	中項目	10年間の事業展開	4年間の事業展開
分野をつなげる	①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動	【1】自然科学、人文科学等個別分野の研究に加え、両分野の連携による研究機能の強化	○自然誌系の研究プロジェクトによる研究の推進 ○人文系の研究プロジェクトによる研究の推進 ○両分野連携の研究プロジェクトによる研究の推進 <b>(重点)</b>
	②広域的な視点での活動	【1】専門領域、特定の地域にこだわらない広域的な研究 【2】科学の進歩に寄与する全国レベル、国際レベルの研究	○普遍研究の推進 ○JST戦略的創造研究推進事業（CREST）や科学研究費による研究の推進
地域をつなげる	①県域を俯瞰した活動	【1】県域を俯瞰した視点での調査研究及び関連地域との比較研究等を実施するとともに、各地域の新たな魅力を創造	○研究課題「千葉県の高齢文化と東アジア」の実施 <b>(重点)</b> ○研究課題「東京湾の変遷を探る」の実施 <b>(重点)</b> ○研究課題「千葉の蘭学」の実施 <b>(重点)</b>
	②他機関との連携・支援	【1】国内外機関との連携による全国レベル、国際レベルの研究推進	○国立歴史民俗博物館との共同研究の実施 <b>(重点)</b> ○東京大学千葉演習林との共同研究の実施 ○その他国内外の研究機関との共同研究の推進 <b>(重点)</b>
	③博物館と地域をつなげる	【1】共同研究等の実施	○共同研究員制度の確立
情報をつなげる	①成果の迅速な公開・発信	【1】研究成果の発信・還元機能の強化（報告書や論文のデジタル化等）	○ウェブサイトでの情報発信 ○researchmap、j-stageなどの活用 <b>(重点)</b> ○GenBankとの連携登録 <b>(重点)</b> ○研究報告のオープンアクセス化 <b>(重点)</b>
	②千葉の魅力にふれる環境づくり	【1】レファレンスサービス強化のため、情報発信手段等を研究	○レファレンスサービスの向上に関する調査研究の推進
	③資料情報の一元化	【1】資料情報の有用性を高める最新技術・事例の調査	○資料データベースに関する調査研究の推進
人をつなげる	①県民参加・協働型の活動	【1】個人や市民団体と協力した調査研究体制の確立	○県民や市民団体と協働して行う調査研究環境の整備
	②県民ニーズへの対応	【1】県民等による自主的な研究活動への支援	○市民研究員制度の見直し
	③新たな協働を生む仕組みづくり	【1】県内外の研究機関等との協働を生む専門性の高い研究の実施 【2】県民や他機関等多様な主体と協働した研究活動の推進	○その他国内外の研究機関との共同研究の推進 <b>(重点)</b> （再掲） ○共同研究員制度の確立（再掲）
未来へつなげる	①これまでの成果の活用・継承	【1】これまで実施してきた研究成果の継承 【2】組織的視点での研究計画の立案	○機関リポジトリの整備による研究成果の可視化 ○県立博物館として行うべき研究課題設定
	②長期的な視点での活動	【1】最先端の視点を踏まえた中長期計画の整備	○県立博物館として行うべき研究課題設定（再掲）
	③人材育成	【1】職員の専門技術の向上、研修の実施・参加、引継計画の立案	○研修会への参加

## 第3章 取組の方針に沿った重点事業の展開

### 第3節 展示・教育普及

大項目	中項目	10年間の事業展開	4年間の事業展開
分野をつなげる	①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動	【1】人文系展示や講座の充実、充実した自然系の強みを活かした展示や講座、レファレンスサービスの実施	○人文系展示の充実 ○自然誌系展示の充実 <b>(重点)</b>
		【2】両分野が連携した総合的視点の展示や講座、レファレンスサービスの実施	○自然誌系と人文系が連携した展覧会の開催 <b>(重点)</b>
【3】自然と歴史、文化を五感で体感できる活動の実施（生態園やフィールドミュージアム等）		○生態園における体験活動の充実 ○フィールドミュージアム活動の充実	
	②広域的な視点での活動	【1】専門領域を超えた広域的・国際的なテーマの展示や講座	○SDGsや生物多様性保全、地球温暖化など全地球規模の課題についての展示や講座などの開催 <b>(重点)</b>
地域をつなげる	①県域を俯瞰した活動	【1】県内各地の自然と歴史、文化を紹介する展示や、県内各地に足を運ぶきっかけとなる講座の実施	○千葉県の海をテーマとした展覧会や講座等の開催 <b>(重点)</b>
	②他機関との連携・支援	【1】県内をはじめとする国内外での巡回展示、収蔵資料の貸出強化、出前展示・行事の実施	○担当部署と連携した半島ちばの魅力を伝える出前展示等の推進
	③博物館と地域をつなげる	【1】県内をはじめとする国内外での巡回展示、収蔵資料の貸出強化、出前展示・行事の実施	○担当部署と連携した半島ちばの魅力を伝える出前展示等の推進（再掲）
【2】他館との合同、共催の展示や行事の立案・実施		○国立歴史民俗博物館との共催による展覧会の開催 <b>(重点)</b> ○東京大学千葉演習林との共催による観察会の実施	
情報をつなげる	①成果の迅速な公開・発信	【1】研究や資料収集等の成果の情報をわかりやすい形で国内外へ迅速に発信	○ウェブ上での研究成果の公開 ○オンライン講座を開催
		【2】誰もが楽しめる魅力的な展示や講座、ウェブコンテンツの充実、県内博物館ネットワークを活用した情報発信	○デジタルミュージアムの充実 <b>(重点)</b> ○国立歴史民俗博物館をはじめとする県内博物館との連携による広報活動 <b>(重点)</b>
	②千葉の魅力にふれる環境づくり	【1】研究や資料収集等の成果の情報をわかりやすい形で国内外へ迅速に発信	○半島ちばの魅力を伝える展覧会の開催 ○半島ちばの魅力を伝えるデジタルコンテンツの作成 ○成田空港での出張展示 <b>(重点)</b>
【2】誰もが楽しめる魅力的な展示や講座、ウェブコンテンツの充実、県内博物館ネットワークを活用した情報発信		○デジタルミュージアムの充実 <b>(重点)</b> （再掲） ○国立歴史民俗博物館をはじめとする県内博物館との連携による広報活動 <b>(重点)</b> （再掲）	
	③資料情報の一元化	【1】県の施設の資料情報を誰もが気軽に利用できるような形で公開	○千葉県立博物館情報システムへの資料情報登録の推進 <b>(重点)</b>
人をつなげる	①県民参加・協働型の活動	【1】個人や市民団体、ボランティア等と協力した活動（フィールドミュージアム等）	○中央博サークル活動の充実
		【2】年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施	○展示の多言語化等 ○行事のオンラインでの開催 <b>(重点)</b> ○多彩なイベントの実施
	②県民ニーズへの対応	【1】時事的話題や県民ニーズに即応した展示等の充実、次世代の学びに応える活動	○県民ニーズの把握（アンケートの実施） ○時事的話題を取り入れた展覧会の開催
【2】年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施		○展示の多言語化等（再掲） ○行事のオンラインでの開催 <b>(重点)</b> （再掲） ○多彩なイベントの実施（再掲）	
【3】専門性が高く、最新情報を取り入れた展示や講座等の実施		○最新情報を盛り込んだ講座等の開催	

第3節 展示・教育普及（続き）

人をつなげる	③新たな協働を生む仕組み作り	【1】年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施	○展示の多言語化等（再掲） ○行事のオンラインでの開催（重点）（再掲） ○多彩なイベントの実施（再掲）
		【2】専門性が高く、最新情報を取り入れた展示や講座等の実施	○最新情報を盛り込んだ講座等を多様な主体と連携して開催
		【3】国内外の人材や施設を繋ぐ活動（学芸員と県民、県民同士等）	○次期5年間で実施予定
未来へつなげる	①これまでの成果の活用・継承	【1】収蔵資料や研究成果を活用した展示や行事、成果をわかりやすくまとめた資料の作成、レファレンスサービスの強化、各地域の魅力の発信	○収蔵資料展、研究紹介展示、シンポジウムの開催 ○研究報告の発行
		②長期的な視点での活動	【1】中長期計画の整備
	【2】未来を考えるきっかけとなる事業の実施		○持続可能な社会への取組を意識した講座等の実施
	【3】次世代の学びに応える活動・地域のコアとなる人材育成支援		○中央博サークル活動の充実（再掲） ○市民研究員制度の見直し（再掲）
	③人材育成	【1】将来を考えるきっかけとなる事業の実施	○SDGsや生物多様性、地球温暖化など全地球規模の課題についての展示や講座などの開催（重点）（再掲）
		【2】次世代の学びに応える活動・地域のコアとなる人材育成支援	○中央博サークル活動の充実（再掲） ○市民研究員制度の見直し（再掲）
【3】博物館に携わる人材の育成とスキルアップの場になる		○中央博サークル活動の充実（再掲） ○市民研究員制度の見直し（再掲）	